

2022年3月期 第3四半期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2022年2月14日

注意事項

2017年4月1日に株式会社東芝からメモリ事業を会社分割し（旧）東芝メモリ株式会社（以下「旧TMC」）が発足しました。2018年6月1日にBain Capitalを軸とする企業コンソーシアムにより組成される株式会社Pangea（以下「Pangea」または「新TMC」）が旧TMCを買収したのち、2018年8月1日に新TMCが旧TMCを吸収合併し、社名は東芝メモリ株式会社となりました。また、2019年3月1日に単独株式移転により東芝メモリ株式会社を完全子会社とする東芝メモリホールディングス株式会社（以下、「TMCHD」）を設立しました。2019年10月1日に当社はキオクシアホールディングス株式会社に社名変更しました。

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2022年3月期第3四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

業績概要¹

[億円]	22年3月期 2Q	22年3月期 3Q	対前四半期
	売上高	4,005	4,027
営業利益	780	722	▲58
マージン	19%	18%	▲2pt
当期純利益	447	382	▲65
マージン	11%	9%	▲2pt

補足情報

減価償却費 ²	1,093	1,134	+41
PPA影響等 ³	▲240	▲262	▲22
法人税等費用	214	172	▲42

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第3四半期におけるEBITDAは、営業利益722億円に減価償却費1,134億円を加算した1,856億円となりました。
3. Pangeaによる旧TMCの買収と台湾・LITE-ONテクノロジー社のSSD事業買収に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額及び2019年6月に四日市工場で発生した停電

影響額です。営業利益からPPA影響等を除外したものが、当社グループの恒常的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第3四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益722億円からPPA影響等▲262億円を除外した984億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益382億円からPPA影響等▲262億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて565億円となりました。

ハイライト (1/2)

足元の実績及び動向

	22年3月期 2Q	22年3月期 3Q
出荷量 ¹ (QoQ)	10%台後半の 増加	1桁%台前半の 減少
販売単価 ¹ (¥, QoQ)	1桁%台半ばの 上昇	横ばい

1. 記憶容量ベース

- 当社グループの第3四半期連結会計期間の売上収益は、前四半期に引き続き過去最高を更新
- データセンター・エンタープライズSSD向け出荷が堅調に推移し、スマートフォン向け出荷も季節性要因により高水準を維持するも、クライアントSSD向け出荷が部品不足によるPCの生産調整によって減少した結果、総出荷量は前四半期比で減少
- ドルベースの価格下落の一方、為替が円安方向に推移したため、販売単価は前四半期対比で横ばい

製品開発・技術開発

- 業界に先駆けて¹、PCIe®² 5.0向け次世代サーバー/ストレージ用フォームファクターE3.Sを採用したSSDをサンプル出荷
- PCIe®² 4.0対応小型クライアントSSDをサンプル出荷
- 4ビット/セル(QLC)技術を用いたUFS Ver.3.1準拠の組み込み式フラッシュメモリをサンプル出荷

1. 2021年11月9日現在。キオクシア株式会社調べ。

2. PCIeはPCI-SIGの登録商標です。

市場動向及び見通し

- データセンター・エンタープライズSSDの需要は、クラウド向け投資と企業のIT投資が継続し、引き続き堅調さを維持する見通し
- PCの生産調整の原因となっている部品不足問題がやや落ち着きつつあり、クライアントSSDの需要は、底堅く推移する見通し
- スマートフォン向けの需要は、5 Gへの移行に伴うメモリ搭載容量の増加に伴い、短期的には季節性要因による変動を受けつつも、中長期的には成長が続く見通し
- 部品不足問題と新型コロナウイルスの感染拡大が顧客需要とサプライチェーンに与える影響については、業界で引き続き注視している状況
- NAND市場の中長期的な成長トレンドについての市場の見方に大きな変化はみられていない

KIOXIA